

数学

東京大学 (前期・文科) 1/1

<全体分析>

試験時間

100分

解答問題数

4題

解答形式

全問記述式

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・変化なし・増加) 難易 (易化・変化なし・難化)

昨年は第1問が解き易かったが、今年はそのような問題がなかったので、受験生には難しく感じられたと思う。

出題の特徴

これまでの東大文科で出されてきたような解き易い問題が一題もなかった。

その他トピックス

文理同一の問題が一題もなかった。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	命題 整数 不等式 微分法	数学A 数学A 数学I 数学II	2つの整数不等式に関する命題の真偽判定 丹念に計算すること	やや難
第2問	2次関数 領域 定積分	数学I 数学I 数学II	頂点が $ x \geq 1$ にあり定点を通る放物線の通過領域 変数の設定を上手に行なうこと	やや難
第3問	図形と方程式 相加相乗平均	数学II 数学II	x 軸に接する円と y 軸に接する円が互いに接するとき 半径についての式の最小値を求める問題 r_1 と r_2 の関係式をまず求める	やや難
第4問	確率 数列	数学A 数学B	コインを投げて文字列AA又はBを出したときの n 番目の文字に関する問題 隣り合った文字の間の関係を捉えるところがポイント	難

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

今回の問題では受験に出題される標準的な学力プラス応用力、思考力が問われている。見慣れた型の問題の解法をマスターするための学習も大切であるが何故このような解法になるのか、問題をどのような切り口で見たら解決につながるのかという所まで日常から研究しておくことが大切である。